

A-3					
主題	見守り支援システム導入による利用者の安全確保と状態観察				
副題	利用者の活動パターンや身体状態を把握することで職員負担の軽減を図る				
キーワード 1	状態把握	キーワード 2	転倒予防	研究(実践)期間	6ヶ月
法人名・事業所名	社福) 同胞互助会 特別養護老人ホーム愛全園				
発表者(職種)	武山操樹(介護副主任)				
共同研究(実践)者	前島達也(介護副主任)				
電話	042-541-3100	FAX	042-546-8284		
事業所紹介	昭島市にある社会福祉法人同胞互助会特別養護老人ホーム愛全園は、昭和 39 年に開設されました。建物は地上二階。一階に特養 70 名、二階に特養 40 名とショートスティ 20 名の居室を配置し、4 人部屋をメインとした従来型の施設です。同一敷地内には、高齢者に特化した複合施設があります。				
<p>《1. 研究(実践)前の状況と課題》</p> <p>現在 70 名の利用者のうち、18 名がマットコールやフレームコールを使用している。夜間だけではなく居室内で転倒、転落される危険性のある方がいる為、終日 18 名の方にマットコールやフレームコールを設置している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在使用している圧力感知型のセンサーコールでは反応が遅く、事故につながる可能性がある。</li> <li>・看取り対応の方が複数名おり、呼吸が確認できるか等何度も確認しに行かなければならない為職員の精神的、体力的負担となっている。</li> </ul> <p>以上、2 点が課題としてされている。</p> <p>《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》</p> <p>事故の防止と職員の負担軽減を目的とする。仮説として、呼吸や心拍を検知する非接触型のセンサーを導入ことで、以下のような効果を期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 正確な睡眠時間の把握、終日の活動パターンを把握するとともに、センサーの鳴動を覚醒や体動など、利用者に応じたシステムの設定にすることで、早い対応が可能となり転倒、転落事故の軽減ができるのではないか。</li> <li>2 介護ステーションの PC から利用者の状態把握ができるようになるため、何度も訪室する必要がなくなり、職員の精神的、体力的負担が軽減されるのではないか。</li> </ol> <p>《3. 具体的な取り組みの内容》</p> <p>状態変化のあった方、センサー反応頻回な利用者に対して、見守り支援システムを導入して</p>					

正確な睡眠状況や状態把握を含めた観察を行い、その人に合ったシステムの設定を行う。活動状態や睡眠状況の把握をすることで利用者にあった離床や臥床、食事排泄時間を検討していく。

#### 《4. 取り組みの結果》

利用者に合わせた見守り支援システムの設定を行い使用することで、利用者の活動パターンや訪室しなければならないコールを判別できるようになり、転倒転落の事故が防げるようになった。また、看取りの利用者に使用することで無呼吸状態や呼吸停止等がわかり、過度な訪室の必要がなくなり、職員の体力的、精神的負担の軽減ができた。

#### 《5. 考察、まとめ》

今のところ、すべての利用者にこの見守り支援システムの導入はできていないが、利用者一人一人の生活パターンや生活リズムは異なるため、システムを普及してそれぞれの状態を把握することで、その人に合った食事、排泄、離床等、その人に合ったケアの提供が可能になるのではないかと。

システムの基となるPCやアプリをダウンしてしまうと使用ができなくなってしまう。また、原因は不明だが何らかのシステム障害があり一時的に使用不可となることが見られた。安全に使用するためにはバックアップ的なものが必要だと考察される。

#### 《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

#### 《7. 参考文献》

静岡県公式ホームページ導入計画書・導入効果報告書

<https://www.pref.shizuoka.jp/kousei/ko-220/jinzai/ict/donyu.html>

#### 《8. 提案と発信》

今回は、新入所やリスクのある利用者、看取りの利用者のみの導入となり取り組めなかったが、今後は、個別の排泄時間や活動時間を把握し、その人に合った生活の提供が実施を行っていきたい。